けんせつ

東京土建のホームページ　http://www.tokyo-doken.or.jp/

印刷部数11万3200部
（購読料は組合費のなかに含まれています）
（年間購読料　千八百円）
定価　五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
発行人・編集人
三木　勉

全国賃金チラシ一斉宣伝行動

全建総連中央執行委員会の決定を受け、3月に全都一斉賃金チラシ宣伝を実施します。賃金アップ、待遇改善は建設業界全体の課題との理解を広げ、若者が未来を託せる産業にしていきましょう。

仲間づくりの大奮闘続く

春一番組織拡大

春一番拡大は2月後半に入り、各支部で本格的な統一行動が取り組まれています。2・5%の拡大目標達成に向けて、仲間とのつながりを強化して奮闘している豊島支部と小金井国分寺支部の活動を紹介します。

豊島・南池袋

アンケート使い対話
声かければ加入につながる

2月21日、豊島支部南池袋分会の春一番拡大第2次行動には13人が集まりました。仲間づくり運動推進ニュースの読み合わせで始まり、後継者対策部のアンケートや確定申告、労災保険更新などの話題で訪問することを確認して行動に出ました。

武田等分会書記長、菅沼幸夫前分会長、相良眞理分会教宣部長、功刀洋書記の班は3人の組合員と対話しました。

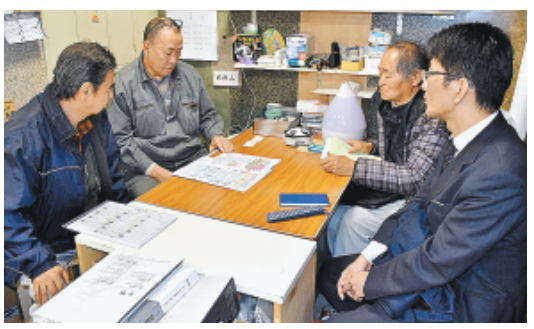
2軒目に訪問した岡田剛さんには、子育て世代に合わせて後継者対策部主催の「スダテ漁」に誘い、アンケートもお願いすると、気持ちよく答えてもらいました。また新入学祝金のお知らせや人間ドック受診を勧めました。他の訪問先では組合のメリットを知らずに加入したとのことで、組合の業務だけでなく、現場改善やアスベスト対策の取り組みなども説明しました。

先週は群オルグを実施しました。事業所群へも訪問し、イベント参加をお願いしました。組合とのつながり強化では声掛けが欠かせません。

南池袋分会は昨年も年間を通して拡大を成功させています。「元組合員にも声をかければ加入につながる。地域ではお祭りでのつながりもあり、そこでも事業所の組合員とつながることもある。必ず目標達成します」と太田孝司分会長は話してくれました。

徳丸分会財政部会に出席した人見さん（中央）

アンケートに答える岡田さん（中央）と相良さん（左）、功刀書記（右）


左から、森谷さん、平石さん、村田さん、小嶋主任書記

小金井国分寺・小金井西部

法定福利費が話題
花見は30人の仲間で

2月20日は小金井国分寺支部小金井西部分会の春一番拡大の初日です。この日、6人の仲間が統一行動に参加しました。「訪問の話題はお花見会のお誘いと年度最後になる健康診断でいきます」と、森谷結治分会長が参加者に伝え、村田文夫分会組織部長と訪問先を決めました。

森谷さん、村田さん、小嶋主任書記の班は、主にリフォーム工事を行なっている㈱昭和未来の平石孝明専務を訪問しました。村田さんと平石さんは30年来、仕事でつながっています。

村田さんによれば昭和未来の新年会に57人も集まり、組合員も大勢参加したとのこと。村田さんは、今度は会社のみなさんでお花見にきてくださいと誘いました。

平石さんに組合への要望をたずねると、「賃上げです」と一言。この15年くらいは単価も上がらず、賃金も上がらない。それでも元請の大手は法定福利費を別枠で請求して欲しいと言い、きちんと払ってくれている。

しかし、個人のお客さんに職人の社会保険料の分を請求しますというのは難しいと言います。それに現場に入るときに職人全員から健康保険の番号を聞き取らなければならず、書類の記入も負担になっているそうです。これからは保険加入がない人は現場に入れない、そうした会社もあるのではないかと心配そうに話してくれました。

小金井西部分会は3月にも2日間の統一行動を行ない、2人の拡大目標達成と同時に花見には30人の仲間を集めると決意を固めています。

仲間がいるから安心
復帰した人見さん（板橋・徳丸）

「組合の良いところは仲間がいること」と話してくれたのは、板橋支部徳丸分会の人見大さんです。

人見さんは中央執行委員長の在任中であった2016年12月26日、病院での検査で病気が見つかり、翌日入院となりました。1カ月強、入院し、その後も通院治療が4カ月続きました。工務店経営の人見さんは仕事の差配を奥さんに託しましたが、この間に仕事を支えてくれたのが、職方として働いてくれていた組合の仲間でした。信頼できる仲間がいたので安心して入院ができたそうです。

それでも、入院が決まって医師から「これからは仕事をすることはできません」と言われたときは、廃業しなくてはいけないかなと不安になりました。しかし幸いなことに、毎月1回、定期的に診察を受けていたおかげで、病気の発見が早く、大きな手術が必要な事態には至らず、現場復帰できるほどに回復しました。人見さんは病気の早期発見には健康診断の受診が大事だと痛感しています。そして入院とその後の通院での医療費に約1200万円かかったと聞いており、土建国保に加入していたので、自己負担が少なくて済み、大変助かったと話してくれました。

人見さんが組合に加入したのは34年前です。その頃の職場の兄弟子に勧められて加入しました。そして所属した分会が徳丸分会でした。分会には仕事で一緒になる仲間がいて、すぐに打ち解けたそうです。仲間は大切だと人見さん。「今は、酒は大丈夫だから、みなさん誘ってください」と笑顔がこぼれました。

朝やけ

■韓国の江原道（カンウォンド）旌善（ソンチョン）にある加里王山（カリワンサン）には120種余りの希少植物と60種以上の野生動物が生息しているという。ここが平昌五輪の滑降競技場になり貴重な自然は破壊された。

■1998年の長野五輪では八方尾根スキー場が滑降競技場になったが、IOCは競技の質を高めると、スタート地点の標高を上げることを主張し、結果的に1680mのスタート地点から85m引き上げられた。スロープ内には希少植物が生息していたが、ジャンプ台を作って破壊を防いだ。そうした教訓が平昌では活かされなかったという。

■五輪大会の施設建設にはともすれば自然破壊だけでなく、財政破壊、過酷労働などがともなってしまう。五輪大会開催までの経済効果が長く続いたり、スポーツ振興が進んだりする保証はない。そうした負の側面を改めて見つめ直すことが必要なのではないか。

■祝賀資本主義という考え方がある。五輪開催に警鐘をならしているJ．ボイコフがN．クラインの惨事便乗型資本主義にヒントを得て作った概念だが、大規模な祭りが作り出す例外状態に便乗して資本主義が暴走する様を表している。東京五輪がそのような結果を招かないように私たちがすべきことは何であろうか。